

# 長崎港の 日本海側拠点港の形成に向けた計画書 ～「新アジア軸」の構築を目指して～

【外航クルーズ(定点クルーズ)機能】



長崎港港湾管理者(長崎県)



Ports and Harbors Division  
Nagasaki Prefecture Government

# 定点クルーズ拠点機能の強化

## 背景

- 長崎港は、10万総トン級の客船専用岸壁を有し、多くのクルーズ船が寄港する国際観光港
- 近年中国、韓国の経済発展により東アジアクルーズが急成長し、多くのクルーズ客船が日本に寄港
- 2020年には、アジア太平洋地区のクルーズ人口は、500万人に達すると予測

## 課題

- 今後も増加が見込まれる東アジアクルーズに対し、クルーズ客船を呼び込むためのソフト対策が不足
- また、CIQ機能を備えた国際観光船専用のバースが1箇所しかなく、バッティングの際はキャンセル



## 今後の定点クルーズ戦略

- 港と観光地のさらなる情報発信による「誘致活動」を強化する
- クルーズ需要の拡大を県内観光につなげるため、港内の複数バース化を行う
- 以上のソフト対策とハード整備により、アジアを代表するクルーズ拠点としての地位を確立する

東アジアクルーズの旅客の獲得

新成長戦略への寄与



# 計画の目的

- ◆長崎港の目指すべき姿として今までの一時寄港の拠点としてのみならず、定点クルーズの拠点として、中国など東アジアのクルーズ旅客の獲得を目指すとともに、アウトバウンドの拠点となる。

- ◆長崎港は、東アジア諸国とのデスティネーション競争において、ロケーション及びクルーズ専用施設の点から、**国内でも先頭に位置する港湾**である。
- ◆今後、国際競争力を高めるための機能拡充を図る上でも、**長崎港が最もスピーディーにかつ東アジア地域を代表するクルーズ拠点**となる事が可能。



長崎港に寄港する大型クルーズ船  
(クイーン・メリー2:154,000総トン)

# 計画の目標

## ◆定点クルーズ拠点としての目標

2015年の目標：年間寄港隻数 25隻

2025年の目標：年間寄港隻数 52隻

長崎港における中国発着クルーズ船の寄港実績 (単位：回)

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	平均
22	13	3	24	21	17



## 【2015年の目標】

◆定点クルーズ : 17隻 + 8隻 = 25隻

2010年までの5カ年間のクルーズ船(中国発着)平均寄港回数17回に新規参入予定の1社を長崎港に誘致することを目指す。(1社当り8回寄港：長崎港実績)

## 【2025年の目標】

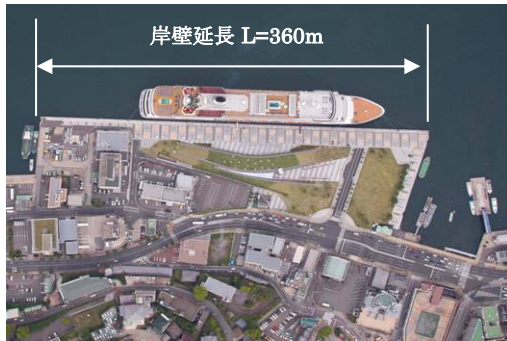
◆定点クルーズ :  $365日 \div 7日 \times 1隻 = 52隻$

週1回のペースで定点クルーズが寄港することを目指す。

◆クルーズ合計目標値 : 定点クルーズ52隻 + 背後観光地クルーズ55隻 = 107隻

# 定点クルーズの拠点となるための条件及び長崎港の優位性

- ◆東アジアの主要港に隣接し、短期回遊クルーズに最も適する港
- ◆日本初の10万総トン級クルーズ専用バース及び国内トップクラスのCIQ機能を持つターミナル
- ◆高速交通網と港湾の連携〔空港、高速自動車道、鉄道、新幹線〕
- ◆クルーズ専用バースから近く、魅力的な背後観光地



松が枝地区岸壁

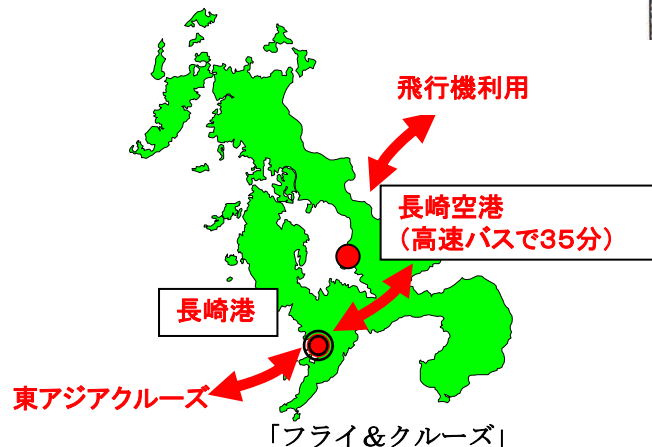


CIQ施設（入管ブースの設置状況）



## 高速交通網との連携

- クルーズ専用バースと空港の距離は36.7kmで所要時間は35分。
- 九州新幹線西九州（長崎）ルートの新博多ー諫早間が2030年4月開業予定。引き続き長崎まで整備されれば、「レイル&クルーズ」の設定が可能。



# 計画の具体的内容①

定点クルーズの拠点として、中国など東アジアクルーズ旅客の獲得を目指すと共にアウトバウンド拠点となり、わが国の経済発展に寄与するため、長崎港において以下の機能強化を図る。

## 【ソフト機能の強化】

◆長崎港の優位性を活かした定点クルーズの「誘致活動」の強化

## 【ハード機能の強化】

◆定点クルーズの拠点としてふさわしい「クルーズ船専用バース」の複数化及び「国際ターミナル機能」の拡張

## 【ソフト機能の強化】



船社への直接誘致訪問



マイアミ・コンベンションでのブース対応



船内での歓迎アトラクション



客船入港時のお出迎え

# 既存施設の有効活用

○定点クルーズの係留は、10万総トン級のクルーズ客船用バースと国際ターミナルビルがある松が枝国際観光船埠頭を使用する。

○複数のクルーズ船寄港時は常盤・出島岸壁を使用する。なお、当岸壁は7万総トン級クルーズ船に対応できるように、岸壁の付属施設の設置等、改良工事を行うこととしている。

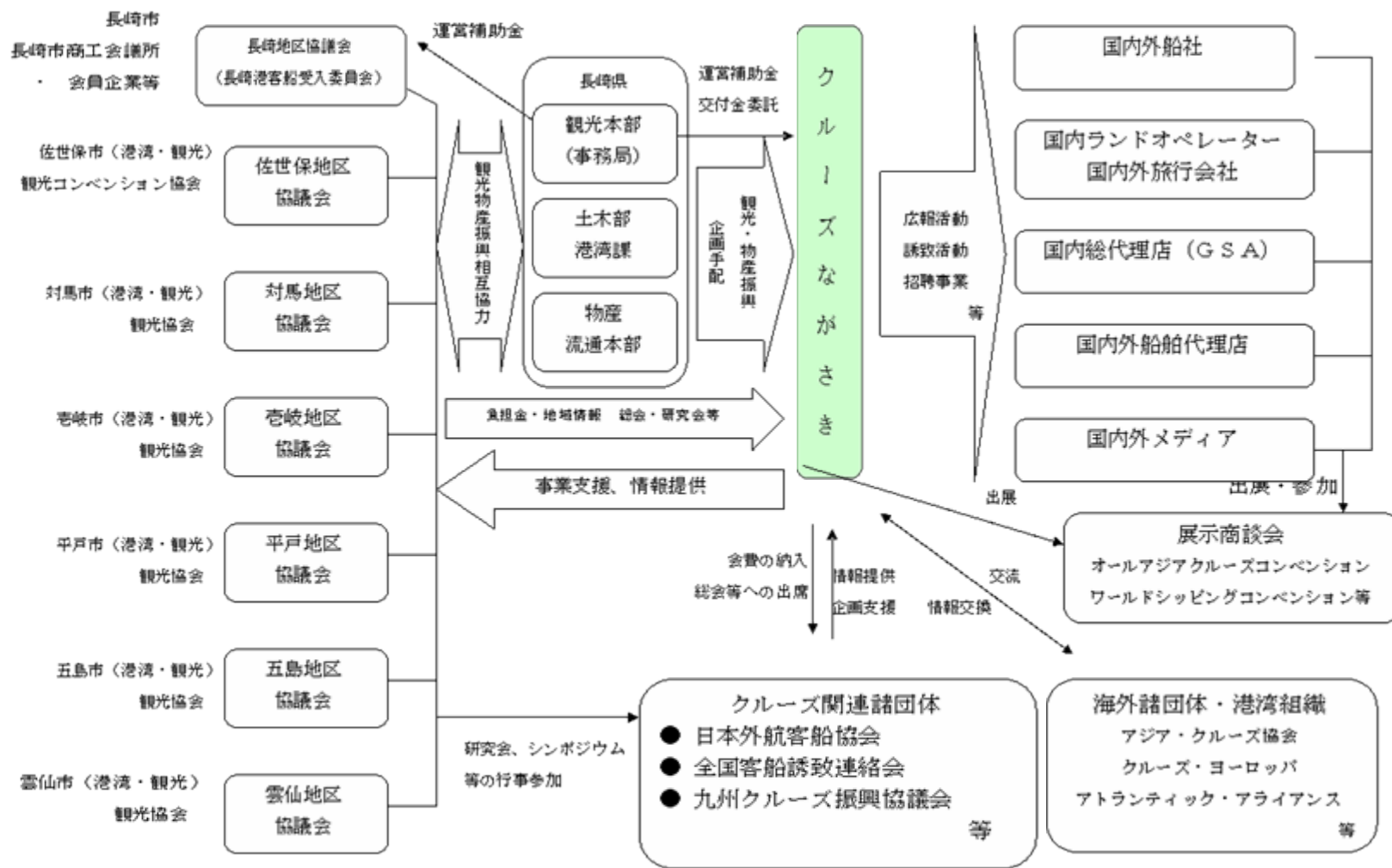
松が枝国際観光船埠頭

常盤・出島岸壁(改良)

# 計画実現のための推進体制や行動計画

## クルーズながさき(長崎県クルーズ振興協議会)を活用した積極的なポートセールス

観光地、港湾施設等の連携促進により、クルーズ客船の誘致拡大に向けた振興策の企画、受入態勢の充実、誘致活動の展開等に一体となって取り組み、クルーズを活用した観光・物産等の活性化を図る。





# 計画実現のための推進体制や行動計画

○「アジア・国際戦略」にて、県を挙げての取り組みを行っている

○「クルーズながさき」を活用した積極的なポートセールスの推進

○長期構想検討委員会設置と港湾計画改訂

- ◆平成25年3月の港湾計画の改訂を目指し、本年、長崎港長期構想検討委員会を設置し、長崎港の進むべき方向性などについて検討を進める。
- ◆議論の結果を基に、日本海側拠点港の形成に向けた機能強化のために必要な施策を港湾計画に位置づけ、早急に整備を進めていく。

## 長崎港における長期構想案



## アジア・国際戦略

■目的：長い交流の歴史によって培ってきた国際的友好・信頼関係を活かしながら、今後も高い経済成長が見込まれるアジアを中心に海外の活力を取り込み、本県の経済活性化を図る。

■推進体制

本部 本部長：知事、副本部長：副知事  
本部長：関係部局長  
幹事会、ワーキングチーム

## 施策展開の視点

- 本県の活路（アジアの活力を取り込み）
- 本県が持つ優位性の復活（海外との窓口として時代の最先端を担ってきた歴史的優位性をアジアの時代に復活）
- 新アジア軸の構築（上海航路の復活により日中間の多面的な人・ものの交流が拡大し新アジア軸が構築、長崎がその日本のゲートウェイとして日中両国での広域的・面的な施策展開を目指す）

## 取組みテーマ

- 表記視点のもと、「海外からの観光客誘致」「県産品の輸出拡大」など7つの取組みテーマを策定

## 行動計画の策定（戦略プロジェクト）

■取組みテーマの実現に向け、9つのプロジェクトを策定

- ①上海航路復活
- ②東アジア重点市場観光客誘致強化
- ③クルーズ客船受入拡大
- ④新規航空路線・国際チャーター便誘致
- ⑤県産品の東アジア輸出拡大
- ⑥対中国ビジネスサポート体制強化
- ⑦孫文・梅屋庄吉と長崎
- ⑧国際人材活用・育成
- ⑨アジアの環境問題への貢献

